

## 【フリートーク：次期環境基本計画の検討状況に関して】

11月19日（日）の環境ひろばでは、次期環境基本計画の検討状況として、5月と8月に行われた「環境基本計画市民ワークショップ（第1回）（第2回）」の報告を受け、自然環境分野などに関する現状の課題整理やアイデアについて意見を出し合いました。当日は以下の意見が提起されました。

- ・ワークショップ参加者にとって、身近な視点から市の環境問題については議論できたが、一方で市の環境基本計画に基づく環境施策の評価について、議論ができなかったのは残念である。
- ・野川の整備事業の推進に向けて、市がもっと国や東京都と連携して積極的に動いてほしい。
- ・姿見の池緑地の一部は、東京都の緑地保全地域に指定されている。市有地の部分についても同じように位置づけて保全してほしい。
- ・ワークショップの中で湧水のことが話題になっていないと思う。
- ・ごみの減量の堆肥化事業について、一部の取組にとどまらず、全市的に堆肥化事業を実施するべきではないか。
- ・地球規模学習及び観測プログラム『Globe Program』があるが、文部科学省が学校でプログラムを実施するために必要な指導員の育成を進めている。今後、市が環境教育にどう取組むのか、計画を策定する中で調査・確認をしてほしい。

その他にもたくさんの活発な意見が出されました。今後も開催されるワークショップをより良くするため、環境ひろば会員が積極的に参加して先導していきましょうとの意見も提起されました。

国分寺市の環境を良くするためには、実態をよく知って、市民一人ひとりが本気になって環境を考えることが必要であると痛感したフリートークでした。今後もワークショップ等に参加し、次期環境基本計画策定に向けて、議論を深めていきたいと思えます。



第1回のワークショップの様子

## 【第3回環境基本計画市民ワークショップを開催しました。】

11月25日（土）に、第3回環境基本計画市民ワークショップ【じぶん×未来×ぶんじ～自分ごととして考える未来の国分寺の環境～】を開催し、27の方が参加されました。令和7年3月策定予定の「第三次国分寺市環境基本計画」（以下「次期計画」という。）に向けて、課題の整理と未来の国分寺の環境の姿（分野ごと）を話し合いました。

2030年、2050年の未来の姿として、「国分寺学を学べるまち」、「ごみゼロでクリーンなまち」、「おいしい水の国分寺」、「子育てしやすいまち」などが提言されました。今後、これらの提言を参考にしながら、市は、目指すべき将来像や基本方針の案を検討します。ワークショップは、引き続き開催します。ご参加ください。



第3回のワークショップの様子

## 【令和5年度「野川源流スクール」開講】



野川を散策する様子

国分寺市を流れる唯一の河川である野川は、小金井市より下流部についてはほぼ整備が完了し、豊かな生態系が回復していますが、最上流部である国分寺市部分については、コンクリートの3面張りのままとなっています。治水・防災の観点はもとより、生物多様性の保全や親水性の確保など環境の観点からも早急に整備に着手する必要があります。

そこで整備促進への気運醸成を図るため、市とNPOが協働で、「野川源流スクール」を開講しています。

2年目となる今年度も、ジュニア版は、市立第一、第四、第七小学校の4年生を対象に、1日コースの授業として実施しました。シニア版も、講習と散策の1日コース。講習では、野川の概要、成立ちと変遷、現状から整備計画まで幅広く学び、散策では、上流端（野川のはじまり）から鞍尾根橋（小金井市との境）まで踏査しました。参加者の多くは、コンクリート3面張りの国分寺市部分と自然豊かな小金井市部分との違いに驚きの声を上げ、整備促進に向けての思いを共有しました。

（環境ひろば 龍神 瑞穂）

## 【砂川用水講座・散策に参加しました】

並木公民館主催、美しい用水の会 代表 佐藤敬臣氏の「新田開発と用水の歴史」、「新田開発による農業の発展」をテーマとした講座に参加しました。

当日は、企画に高い関心を持つ市民約30名が参加しました。フィールドワークは晴天に恵まれ、質疑も多く大盛況でした。

玉川上水開削の歴史は古く、1653年4月から工事に入り、僅か8ヵ月後に四谷大木戸まで完成、翌年の6月には虎ノ門までの地下樋の工事も完成したとされています。

玉川上水は江戸市中の飲み水であるとともに、沿岸の各村々へも分水が認められ、上水完成の翌年には野火止用水への分水、続いて砂川、国分寺村分水が開かれ、飲み水や精米、製粉にも利用しました。財政苦に陥っていた徳川8代将軍吉宗は、財政逼迫を打開するために新田開発の奨励を打ち出したのです。中でも武蔵野台地の新田開発を重要視し、東京ドーム約100個分を国分寺市域の農民に貸与するなど、様々な農民救済策を実施しました。しかし、開発すべき土地は、その半分ほどが原野に近いもので、穀物などの生産に適する土地は極めて少なく、荒れ果てていた原野を農耕地として改良する苦労は大変であったと思います。現に2割程の離農者が出たようです。砂川用水（旧：野中新田分水）は、そのような農業生活に欠く事のできない生活基盤の一つでした。用水の重要性を理解すると同時に、農民の苦労が偲ばれます。

（環境ひろば 白木昭憲）



水車の写真：終戦後



野中新田分水散策

## 環境ひろばのお知らせ

1月21日（日）午前10時～正午 市役所 書庫棟会議室（戸倉1-6-1）

『環境ひろば』は、環境（保全、回復、創造）について市民・事業者・市が自由に意見交換を行う場です。皆さんのご参加をお待ちしています。

（あとがき）

姿見の池に注ぎ込む地下水の温度が、昨年までは一年間を通じて16℃でしたが、今年の夏は地下水の水温18℃、池の水温は20℃以上になりました。日影山で秋に見られる野草が見当たらないなど、地球温暖化は身近な環境にも現れています。ぜひ皆さんも環境ひろばに集まって、いい知恵を出し合ひましょう。ご参加お待ちしております。（鈴木）

国分寺市環境ひろば 事務局

国分寺市 まちづくり部 まちづくり計画課

〒185-0012

国分寺市本町4-1-9本町クリスタルビル4階

TEL：042-314-9005（直通）

FAX：042-323-9060

Eメール：machikeikaku@city.kokubunji.tokyo.jp